



# 学校だより

11月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawadai/>

横浜市立六つ川台小学校  
平成29年10月31日

## 深まる秋に読書いろいろ

副校長 佐藤 栄

校庭の木々が色づきはじめ、秋の深まりを感じます。夕方5時を過ぎると、すっかり暗くなってきました。寒くなったり、暖かくなったりと気温の変化が著しい日があります。子どもたちの健康管理には、学校でも注意していきませんが、ご家庭でもぜひ気をつけてください。「早寝 早起き 朝ご飯」などの生活リズムが崩れているのでしょうか、学校に来てでも体調不良で一日を過ごす子どももいます。健康な毎日を過ごしてほしいと思います。

10月の前半は、雨の日が長く続きました。10月23日(月)に超大型台風といわれた台風21号の上陸により暴風警報が発令され、横浜市のほとんどの学校は臨時休校となりました。暴風の強さを示すように本校の裏の桜の木の枝(直径10cm)が折れていました。

雨が続いている日々の中で、突然一日だけ快晴の日がありました。10月18日のことです。この日は、6年生が横浜市体育大会に参加する当日でした。前日の雨模様が嘘のように晴れ気温も上昇しました。本校も連日雨天のため練習不足でしたが、その中でも本校6年生児童は自己ベストや全員参加の長縄でチームベストを記録し満足のいく大会となりました。

月の後半は、4年生の浄水場・防災センター見学や3年生の遠足など天候に恵まれ実施できました。「全校遠足」も天候に恵まれて、異学年で構成する縦わりグループ活動もそれぞれの児童が、自分の役割を意識して思いやりを発揮した様子が随所に見られました。

さて、文化の日を中心に読書週間がこの時期始まっています。読書週間と重なっていますが、「古典の日」が11月1日に制定されています。この日は『源氏物語』の存在が確認される最古の日付にちなんでいるそうです。図書館もなかった昔、多くの本を集めて編纂した一人に塙保己一という人がいます。彼は幼少のころに目が不自由になり、当時は読みたい本は高価で買えないので、彼が若いころは、持っている人のところへアルバイトに行きお駄賃として読み聞かせてもらい、本の内容を知りました。彼は6万冊の本の内容を頭に入れていたといわれています。「奇跡の人」という映画でも有名なヘレン・ケラーは「日本の塙保己一を知り、自分も努力できた。」と言っています。本校でも毎月「本の実」の皆さんがクラスごとに読み聞かせをしてくださっています。読み聞かせていただいた本の中身は子どもの心に強く残っていると思います。

「子どもが本好きになるには、子どもの近くに本好きの大人がいることです。」とある作家のインタビューを読んだことがあります。親の好きなものは、その姿を見て子どもも好きになることは多いと思います。

子どもが本を小声で読んでいる声に耳を傾ける。親が子どもの本読みを聞く読書を提唱しているのが、作家の椋嶋十です。「親と子の20分間読書」とおっしゃっています。

灯火親しむ頃、各ご家庭で「読み聞かせ」「親子読書」等々、本と親しむ時間をつくってはいかがでしょうか。